平成 25 年度第 2 回学校協議会実施報告

実施日時：平成 25 年 11 月 8 日（金）午後５時～７時
実施場所：本校会議室
学校協議会委員出席者（五十音順）
　塩見委員、柴田委員、高松委員、田中委員
事務局出席者
　山﨑（校長）、繁内（教頭）、中尾（事務長）、藤井（首席）、徳田（教諭・教務主任）
　常盤井（教諭・進路指導主事）、伊藤（教諭、3 年主任）、岡本（教諭・2 年主任）
　吉田（教諭、1 年主任）
次第
　校長挨拶
　本校の現状報告（校長、藤井）
　　第 1 回授業アンケート結果について
　　本校の生徒指導の成果と今後の課題について
　保護者からの意見について
　質疑・応答
　次回催日程について
内容
　＜挨拶＞
　校長より、5 月の第 1 回学校協議会以後、本日までの本校の取組みについて説明
　　修学旅行（岩手県等）、学校祭（体育祭・文化祭）、学校説明会（8 月、約 300 人来校）
　　基礎学力診断テスト（第 2 回目、9 月）・・・国語の成績が伸びた
　＜現状報告１＞
　第 1 回授業アンケート結果について報告（校長）
　　条例に基づき本年度から授業力の向上を図るために実施している。第 1 回目は 7 月に全校生徒に対し、それぞれの受講科目担当教員の全授業についてアンケートを行った。今回示している資料は、各教科の生徒が全員履修している科目、または受講者が非常に多い科目のみをデータで示し、各教科による課題分析を行ったものである。
　　全体的には次の点で改善点が上げられた。
　　①家庭学習の向上
　　②補助教材・学習環境の向上
　　③達成感を持たせる工夫
　　④実験・実習の取り入れ
　　⑤興味・関心を喚起する工夫
　　⑥展開クラスの利点の活用

⑦授業規律をさらに高める
⑧授業内容定着の工夫

各教科個々の分析については、課題設定や改善方法の具体性などの点で、教科間の温度差がある。これは授業アンケートを基盤に課題設定等を行うという方式が今年度から始まったことであり、どれくらいの深度で分析・課題設定等を行うかが定着していないことによるものと思われる。このデータはこれから職員会議でも検討し、今後アンケートのデータ分析を繰り返すことによって、教科による温度差を平準化させて、より実効力のあるものに高めていこうと考えている。
なお、アンケートは９項目、各項目 4 点満点で、レーダーチャートと表で傾向を示している。

委　員：
〇授業での年間計画、シラバスを生徒は見ているか
事務局：科目選択説明ではシラバスを紹介しているが、授業において必ずしも全教員が年間指導計画を生徒に示しているわけではない。
委　員：
〇茨木市の中学では、それぞれの授業で本日の目標を示すことになっている。実際にしているのは 5 割ぐらいであるが、そういう取り組みもこれから必要ではないか。
〇大学ではシラバスが教員評価にとって大事なものとなる。到達度や評価の仕方が明確に学生に示される必要がある。例えば、美術系の科目では、どういう家庭学習を与えているか明示する義務がある。また、教員と同じことをしたら 60 点、＋α の努力をしたら 80 点、もっと努力したら 100 点と、評価基準を示すのだが、学生への説明が難しいところもある。幼児教育における図画工作やピアノの講座もここまでやったら何点とシラバスで示している。
〇また、大学では講義に関する学生アンケートはホームページで公開する。教員の自己評価を学科長や学長が評価するしくみはあるが、ボーナス等への反映はしない。シラバスの内容が学生に十分理解できるようにするよう、各教員に周知するのはむずかしい。
＜現状報告２＞
本校の生徒指導の取組みの成果と今後の課題について（藤井首席）
頭髪規定・服装規定違反者の減少、懲戒件数の減少、盗難件数の減少、ボランティア活動の状況､ユネスコ ESD パスポートによる今後のボランティア活動の活性化により、生徒指導を規制型から育成型へ移行する方向について説明。
委　員：
〇南中フェスタなど地域の行事につばさの生徒の参加が増えているのを実感している。

ESD パスポートによるボランティアの点数化が影響しているのか。それとも教員が後押ししているからか。

事務局：ESD パスポートについて職員会議で連絡したのは２週間前のことで、今後の取組みになる。地域行事への積極的な参加については、学校の方針として２年前から取り組んでおり、南中フェスタの参加者が増えたのは、その成果のあらわれと考えている。

しかし、ボランティアの点数化を「にんじん」のようにして、生徒の地域貢献を進めようとしているわけではない。先ほど言ったような方針が学校全体にあり、現にボランティア活動に 300 人ほどの生徒がかかわるようになってきている。行った子は何度もボランティアに参加するようになる。今後は行っていない子も行けるシステムを作りたい。行ったかいがあったと思わせる仕組みとして、ＥＳＤパスポート活用したいと思っている。

委　員：

〇このようにボランティアを点数化するために一覧にするとなるほど行く気になるなと思う。

事務局：ESD パスポートはユネスコスクールの活動の一つとして定着させたい。そしてボランティアを一部の生徒から全校的な活動に広げたい。そのため本校は、パイロット校にも名乗りを上げた。文部科学省にも承認を得るつもりでいる。

委　員：

〇来年 1 月 19 日に上中条の青少年会館で子ども対象の工作教室を予定しているが、その際、併せて紙芝居の読み聞かせを実施する。9 時～17 時に 30 分刻みで計 13 回。読み手の高校生を募りたい。

事務局：保育エリアの生徒に声かけをしてみる。

委　員：

〇ＥＳＤパスポートの「ボラン」の数字はボランティアに行っている子は上がっていくだろうが、部活などで行きたくても行けない生徒などもできる範囲でこの ESD パスポートを活用してほしい。生徒がもっと輝ける学校にしてほしい。

＜二つの報告について意見交換＞

委　員：

〇授業力向上は中学でも課題である。今後、高校入試に必要な内申が絶対評価に変わる。教科の目標に準拠した授業の進め方を工夫している。中学校では、これをきっかけに教員がどのように観点別に生徒を評価できるか議論しているところである。

〇一番目の報告に係る各教科の授業アンケートの分析について PDCA サイクルにあてはめると、プランが弱い、チェックとアクションの教科間の温度差が大きい。チェックは不十分、より対策を具体化し、教科間のレベルを合わせる必要がある。アクションも大事。具体的、数的なものが必ずいる。

〇二番目の取組みはおもしろい。頭髪指導や服装指導を社会貢献へ結び付けるロジックがおもしろい。資料にある「他を害する」「他を害しない」「他を益する」「他を益しない」のマトリックスは、「社会貢献」へ結び付けるため、軸のことばを変えたほうがいいのではないか。

校　長：ご指摘の点を深く受け止め、今後授業アンケートの分析の方法等について検討を重ね、課題の抽出等がしっかりと行えるようにしていきたい。

また、生徒指導を「～すべからず」という規制型から、「～する」という育成型に転換することで、生徒が力をつける生徒指導をめざそうというのが、その趣旨である。そのためのキーワードが「社会貢献」であると考えている。

＜その他＞

保護者からの意見はなかったことを報告。次回は 1 月末頃を目途に開催することを予告して終了。